

平成25年行政事業レビューシート (外務省)

事業名	原子力安全関連拠出金 (任意拠出金)		担当部局庁	軍縮不拡散・科学部		作成責任者			
事業開始・終了(予定)年度	平成6年度開始		担当課室	国際原子力協力室		室長 羽鳥 隆			
会計区分	一般会計		政策・施策名	Ⅶ-1 国際機関等を通じた政務及び安全保障分野に係る国際貢献					
根拠法令 (具体的な条項も記載)	外務省設置法第4条第3項		関係する計画、通知等	-					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	本件事業を実施することにより、1986年に事故を起こしたチェルノブイリ原発から周辺環境や地下水に拡散する放射能汚染を防止し、環境保全を図り、また、同原発の安全性を向上させることを目的としている。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	本件事業は、欧州復興開発銀行に設置されている2つの基金によって実施されている。一つ目は、チェルノブイリ・シェルター基金によって実施されている事業であり、1986年4月に事故を起こしたチェルノブイリ原発4号炉の「石棺」(原子炉を覆うコンクリートの壁)が老朽化等により危険な状態であることが判明したことを受け、放射性物質の漏洩を防止し環境保全を図ることを目的として、4号炉全体を覆うシェルターが建設されている。二つ目は、原子力安全基金によって実施されている事業である。同基金は、旧ソ連、中・東欧諸国の原子力安全の向上のために設置された基金であるが、現在は、チェルノブイリ原発1-3号炉で使用された燃料を中間貯蔵するための施設の建設と同原発で発生した低・中レベルの液体廃棄物を固化する施設の建設が行われている。								
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input checked="" type="checkbox"/> その他								
予算額・執行額 (単位:百万円)			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求		
	予算 の 状 況	当初予算	-	-	1,382	-			
		補正予算	-	-	2,034	-			
		繰越し等	-	-	-	-			
		計	-	-	3,416	-			
	執行額		-	-	3,416				
執行率 (%)		-	-	100					
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (25年度)	
	チェルノブイリ原発安定化のためのシェルター、液体廃棄物処理施設及び使用済燃料中間貯蔵施設の建設を、それぞれ2015年秋、2013年秋、2016年夏までに完成させるための調整及び貢献。			成果実績	会合参加回数	3	6	6	6
				達成度	%	100	100	100	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込	
	G8原子力安全・セキュリティ・グループ会合(通常年3回)、チェルノブイリ関連拠出国会合(通常年2回)への参加等を通じ、本件事業の円滑な実施及び我が国拠出金の適正な使用を確保する。			活動実績 (当初見込み)	施設の完成割合	-	-	-	-
						-	(-)	(-)	(-)
単位当たりコスト	1,382(百万円/1回(当初予算分)) 2,034(百万円/1回(補正分))			算出根拠	総予算(3,416百万円)/本件事業(1回)				
平成25・26年度予算内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由					
	計								

事業所管部局による点検						
	項目	評価	評価に関する説明			
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。	○	我が国内において原子力安全への関心が高まっている中で、本件事業は原子力安全向上のための国際的な取組の成功事例である。			
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	-				
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	○				
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	本件事業にかかる事業者は、本件分野において十分な技術やノウハウを有する事業者により実施されている。単位あたりのコストについても削減に向けた取組が行われている。			
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-				
	単位当たりコストの水準は妥当か。	○				
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-				
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	-				
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-					
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	本件事業は、チェルノブイリ事故による環境汚染の防止や原子力安全の向上に向けた国際社会としての取組であり、シェルターの建設が平成24年4月に開始されるなど順調に進捗している。			
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○				
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	-				
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-				
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名			
点検結果	本件事業は、大規模かつ長期に亘る事業であるが、G8や欧州復興開発銀行をはじめとする国際社会が協調して取り組んでおり、今後の原子力安全の向上にとっても重要な意義があるところ、平成24年4月にシェルター建設が開始されたことに代表されるように有効な実績を示しているといえる。					
外部有識者の所見						
行政事業レビュー推進チームの所見						
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
備考						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
	平成22年	-	平成23年	-	平成24年	新24-1